

「代わって」と「代わる」の指導上の留意点

日本語科 専任教授 西村 学

・要旨

『文化中級日本語Ⅱ』の第5課で学習する文型「～に代わる<名詞>」の誤用分析から、「代わる」に続く名詞には何かをくくり、まとめる意味を持つ表現が来ることがわかった。また、「代わって」とその類似表現である「代わりに」を対比して分析することで、それぞれの特徴を整理した。それらを踏まえ指導上の留意点を検討した。

・キーワード

代わって 代わる 代わりに 誤用 助詞相当語 文化中級日本語Ⅱ

1. はじめに

2015年度4月期4, 5組^{注(1)}で『文化中級日本語Ⅱ』（以下「中級Ⅱ」）第5課文型1「代わって／代わる」を指導した際、学習者の書いた文に「あの会社では石油に代わる太陽エネルギーを開発している」のような不自然なものが散見された。この不自然な日本語を訂正してフィードバックを与える授業を担当した筆者ともう一人の教師とで、フィードバックの方法とそのためタスクなどを検討したところ、「～代わる<名詞>」という表現が「中級Ⅱ」で学習するほかの助詞相当語とは違って、続く名詞に特徴があることが指導のポイントであると確認できた。その特徴を踏まえた解説とタスクを使ってフィードバックの授業を行い、学習者に「～代わる<名詞>」という表現の持つ特徴を理解させることができた。

その一方で、「代わって」には類似した意味を持つ「代わりに」という文型がある。本校で「代わりに」は「代わって」に先立つ『文化中級日本語Ⅰ』（以下「中級Ⅰ」）で学習することもあり、これまで何度か学習者から「代わって」と「代わりに」の違いを質問された経験があった。そのような事情から、授業後「～代わる<名詞>」だけでなく「代わって」の用法を「代わりに」と対比しながら整理する必要があるとも感じた。そこで、「代わって」と「代わりに」についても、分析し整理することにした。

2. 本稿の目的

このような経験を踏まえ、本稿の目的を次のように設定した。

- ①「～に代わる<名詞>」という表現にどのような特徴があるのか、他の助詞相当語と

対比しながら整理する。

- ②「代わって」の用法にはどのようなものがあるのか整理する。
- ③「代わって」と「代わりに」を対比的に分析して整理する。
- ④①～③を踏まえて、何をどのように指導するべきか整理する。

3. 「～代わる<名詞>」の特徴

この表現は、「代わる」にどのような名詞が続くのかということが特徴的である。「中級Ⅱ」に取り上げられている例文を例に説明する。

○あの研究所では原子力に代わる新しいエネルギーの研究を進めている。

×あの研究所では原子力に代わる地熱発電の研究を進めている。

「代わる」に続く名詞（句）には、具体的な内容を表すのではなく、具体的な事物をくくり、まとめるような役割を持つ表現が来る。上の例文で言えば、「風力、太陽光、バイオマス、地熱」といった具体的なエネルギー源を表す語ではなく、それらをくくり、まとめる「新しいエネルギー」や「新しい発電方法」といった表現でなければ不自然になる。

・部長に代わって課長が出席することになりました。

一方、「代わって」の場合も「代わって」のすぐ後に名詞が続くため、見た目では違いがわかりにくい。上の例文で言えば、もともと出席するはずだった「部長」とその代理の「課長」の両者を具体的に説明していることがポイントとなる。

4. 「中級Ⅱ」の助詞相当語

「中級Ⅱ」では、「代わって／代わる」のほかに4つの助詞相当語が取り上げられている。それらはいずれも名詞に修飾する形が取り上げられているが、「～代わる<名詞>」のように続く名詞（句）に具体的な事物をくくり、まとめるような役割を持つ表現が来るという特徴を持つ助詞相当語は他にはないことがわかる。

以下に、4つの助詞相当語について、名詞修飾しない形（例「～代わって～」）と名詞修飾する形（例「～代わる<名詞>」）の違いや特徴を学習者に説明する場合、どんなアイデアがあるか考えた。以降の「例文1、2、3…」などは「中級Ⅱ」に例文として取り上げられている文であることと、その例文番号を表している。

4-1. わたって／わたる（第2課文型3）

例文2「砂丘が数キロにわたって広がっている」、例文4「20日間にわたって行われた」のように「わたって」に動詞が続く例文がある。また、授業を行う際、既習の語彙で「40キロにわたって走り続けた」のような例文を提示することができ、動詞（句）を修飾していることを説明しやすい。

動詞が続く例を比較的容易な文で提示できることから、例文5「10時間にわたる日米の交渉が続けられた」は「わたる」に続く語が名詞で、その名詞に修飾していることを学習者に気づかせやすい。「長い交渉」「10時間にわたる交渉」のように名詞修飾している部分を形容詞などと対比して示すこともでき、名詞に修飾している文構造を説明しやすい。

4-2. よって／よる（第2課文型6）

「よって」は直接動詞が続く例文は「中級Ⅱ」に取り上げられておらず、一見ただけでは「よって」が何に修飾しているのかわかりにくい。しかし、この文型は原因理由を表し、すでに学習している「ので」「ため」などと同様に、前件が原因、後件が結果となり、文全体の意味の理解は難しくないと考えられる。

「よる」が名詞を修飾する形であることを説明するのもそれほど難しくないとと思われる。例文4「たばこの火の不始末による火事が多い」を使って、学習者に「何が原因の火事か」を聞き、「火の不始末による火事」という答えを導いたうえで、「放火による火事」「ストーブを倒したことによる火事」などをイラストを使って示せば、「『どんな火事』かを説明している」ということを理解してもらえらるだろう。

4-3. 関して／関する（第6課文型1）

教科書の例文の中には直接動詞が続く例文はないが、「警察が事故の原因に関して調べている」「彼は日本の芸能人に関してよく知っている」のような既習の語彙で例文を提示することができ、動詞を修飾していることを示しやすい。

例文2「最近の若者は、政治に関する知識が乏しいような気がする」は「どんな知識が足りないか」を学習者に聞いて、「政治に関する知識」という答えを導いたり、ほかに最近の若者に足りない知識として「歴史に関する知識」なども提示したりして、「『どんな知識』かを説明している」ということに気付かせることもできる。また、学習者に何に関する知識なら自信があるか尋ね、それぞれの得意分野について紹介させることで、「～に関する知識」という表現を自分のことに引き寄せて使いながら定着させることができるだろう。

4-4. おいて／おける（第6課文型5）

「おいて」は「で」に置き換えられることが多い。一方、「で」に用法が多いのと同様に「おいて」も用法がいくつかあり、その点が難しさとなっている。例文1「本館3階301号室において、新入生のオリエンテーションを行います」は場所を表していて、「で」の改まった用法だということがわかれば混乱はしないと思われる。しかし、例文2「外国語学習において大切なこと」は分野、例文3「国際社会における日本の役割」は場面、例文4「グリム兄弟は言語学の分野における業績もすばらしかった」は分野、例文5「原始時代においては、力の強い者のみが生き残ることができた」は時代を表していて、「おいて」と「おける」の違いよりも意味が多い点が難易度を上げていると言える。

「おける」の使い方という点から見ると、例文3「国際社会における日本の役割」は「国

際社会（で）の日本の役割」、例文4「言語学における業績」は「言語学（で）の業績」と言い換えることができる。

5. 「代わる」の指導の実際

本校では、「中級Ⅱ」を指導する際、文型の定着を目指して次のような段階を踏むことが多い。その課の文型の意味導入・練習の授業が終わったら、『文化中級日本語Ⅱ練習問題集』を宿題として行わせ、それを教師が添削し、間違いの多かった部分などを解説する授業を行う。その後、短文作成の自主作成教材プリント（以下「文型作文」）を使って、以下のよう前後の文脈から考えて空欄に適切な表現を書き込んで文を完成させ、その文型の理解と定着を図る。そのプリントは回収して担当教師が添削し、のちに間違いが多かった部分を解説したり、オリジナリティーのある解答を紹介したりする授業を行う。

文型作文の例

・今、バナナダイエットが話題になっている。でもきっとみんなはすぐに飽きて、
_____に代わる_____が紹介され、話題になるだろう。

○ バナナダイエットに代わる新しいダイエットが紹介され、話題になるだろう。

筆者が2015年度に担当したクラスでも上記のような段階を踏んで指導を進めていた。筆者は「中級Ⅱ」第5課の「文型作文」を担当し、授業後学習者の書いた短文を添削したところ、「代わる」をターゲットにした問題で、次のような誤用が多いことに気づいた。

× バナナダイエットに代わるりんごダイエットが紹介され、話題になるだろう。

「代わる」には、具体的な事物ではなく、それらをくくり、まとめる意味を持つ名詞が続くが、その点を十分に理解できていないための誤用だと思われた。

そこで、この「文型作文」を返却する際に「代わる」に続く名詞の特徴を再度説明し、その理解を確認するためのタスクを行った。この授業も筆者が担当した。「代わる」に続く名詞が具体的なものをくくり、まとめる意味を持つという特徴を学習者に理解してもらうために、「代わって」と対照的にポイントとなる名詞が具体的な事物かどうかを確認して説明するようにした。具体的には、教科書の例文5と例文2を下記のように併記して学習者に提示し、代わるに続く名詞の違いを説明した。

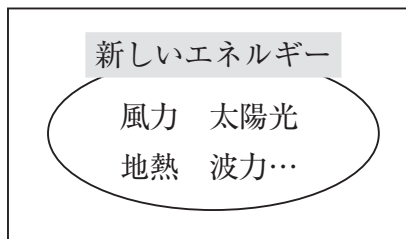
例文5 あの研究所では原子力に代わる新しいエネルギーの研究を進めている。

↑ 具体的じゃない
たとえば？

例文2 病気の父に代わって私がパーティーに出席した。

↑ 具体的な人

学習者には、例文5を使って「『新しいエネルギー』は具体的な言葉ではありませんね。『新しいエネルギー』というのは1つじゃありません。いろいろあります。たとえば？」と学習者に考えさせ、「太陽光」や「風力」など具体的な事物を引き出したうえで、「代わる」に続く名詞が具体的ではなく、それらをくくり、まとめる言葉であることを「『新しいエネルギー』のところは「具体的な例ではなく、例をまとめる内容」を表す言葉が来ます」のように説明した。例文2では、「『私』は具体的ですね。『父』じゃなくて『私』が出席しました。どちらも具体的ですね」と説明した。そのうえで「代わる」と「代わって」は続く名詞の種類が違うことを確認した。学習者がすぐに理解した様子だったので、下記のような図は示さなかった。



このような説明の後、説明が理解できたかどうか確かめるタスクとして「代わる」と「代わって」のどちらを使うか考える問題を提示した。最後に「文型作文」と同じ文を提示し、間違えてしまった学習者には何が正しいか確認できるようにした。

問題

- ①田中さんがやめることになったので、今、田中さんに（ ）先生を探している。
- ②1か月後、田中さんに（ ）伊藤さんが教えることになった。
- ③これまで、速い電車といえば新幹線だった。
しかし、現在、新幹線に（ ）乗り物の開発が進んでいる。
- ④新幹線に（ ）リニアモーターカーが活躍する時代は近い。
- ⑤来年はりんごダイエットにかわる_____が流行するだろう。

授業では、①から④をペアで考えさせてから全体で確認したが、違いを混同している学習者は見当たらなかった。その後、⑤を提示して全体に答えを求めたところ、学習者から「ダイエット」や「ダイエットの方法」といった言葉が提示され、理解が進んだことが確認できた。

この年、筆者はこの文型の意味導入・練習の授業は担当していなかったが、過去にどのような指導を行っていたか、授業で使った教材を見ながら振り返った。すると、授業で多くの時間を割いていたのは「代わって」の意味とその練習であった。「代わって」は「代わりに」と意味が似ていて、両者の混同が見られることが多いため、その使い分けを理解させることを授業のポイントと考えたためであった。「代わる」については、教科書の例文5「あの研究所では原子力に代わる新しいエネルギーの研究を進めている」を取り上げ、以下のような例文と図を示して後ろに名詞が続く形であることを確認し、名詞が続く例文の紹介と簡単な作文練習を行っただけであった。

- ・原子力に代わる新しいエネルギー

名詞

- ・A製薬会社では今使われているかぜ薬に代わる新しい薬を開発している。
- ・タブレット型のパソコンはノートパソコンに代わる人気商品だ。
- ・() は火力や原子力に代わる新しいエネルギーとして注目されている。

それまでの授業で意味導入・練習の授業の中で、「代わる」の用法について学習者が混乱したという記憶はあったが、改めて振り返ってみると、「代わる」の特徴について、説明が不十分でその特徴が理解できたか確かめるようなタスクを与えていなかったことがわかった。

6. 「代わって」の用法

「代わって」の用法の種類や頻度を調査した。「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(コーパス開発センター)のデモ版(「少納言」)^{注(2)}を用いてジャンルに「書籍」を年代に「2000年代」を選択し「に代わって」をキーワードとして検索したところ、350件ヒットした。そのうち、助詞相当語ではない例文や例文が長く、その一部しか検索されないために意味や文構造がわからない例文などを除いたため、分析対象は293文となった。その293文を「代わって」の意味、対象、対象の格関係で分類した。

意味は前後の文脈から判断し、「代理」と「取って代わる」の2種類に分けた。グループジャマシイ(1998)などの参考書では両者を区別していないが、ここでは前後の文脈から2つを分けてみることにした。

- ・部長が急病のため、部長に代わって課長が出席することになった。(代理)
- ・新幹線に代わってリニアモーターカーが活躍する時代は近い。(取って代わる)

「代理」は本来すべき人ができなくなり、他の人がするという場合で、最適ではなくそれに準ずるという意味がある。それに対し、「取って代わる」は世代交代を表したり、間に合わせではなく完全に入れ替わったことを表したりする。上記には両者の違いが際立つ例文を挙げたが、短文だけでは「代理」か「取って代わる」か区別できない場合もある。

「部長に代わって課長が」のような場合は対象を「人」とした。組織や国、動物も人に準ずると考え、本稿では「人」に含めた。一方、「新幹線に代わってリニアモーターカーが」や「肉体労働に代わって軽作業が」といった場合には、「事物」とした。

「代わって」が対象とする格が何かということについても整理した。「部長に代わって課長が出席することになった」であれば「代わって」が表す対象は「が格」で、「田中さんに代わって木村さんを派遣した」の場合は、「を格」である。

このような基準で293文を分類したところ、表1のような結果になった。

(表1) 「代わって」の使用例の分類

意味	代わって											
	代理				取って代わる							
対象	人				人				事物			
格	が	に	から	の	が	を	に	の	が	を	に	の
用例数(293)	155	8	2	1	39	4	2	1	67	8	5	1

「代理」の用法の場合は対象が「人」で「が格」の用例が非常に多い。「に格」の例は「副大臣は自分に代わって官僚に答弁させることができなくなった」のように使役文や受身文の例が多く、もともとは「自分に代わって官僚が答弁する」という「が格」の文であることから、この用法での基本的な格関係は「が格」と言えるだろう。

「取って代わる」については、対象が「人」で「が格」と対象が「事物」で「が格」の用例が多く、この2つが基本的な用法だと言えそうだ。

- ・マンスフィールド大使に代わって誰を後任として送るかは大きな問題だった。
- ・大きく変化している私たちの社会は、私たちにそれまでの暗黙の相互理解に代わって意識化された相互理解を形成するように要請しているのである。

上記のように、「を格」の例文を見てみると、「取って代える」というような他動詞的な意味の文脈で使われていることがわかる。自動詞的な表現か他動詞的な表現かは文脈によって選ばれるのであろう。しかし、どうしてこのように「を格」の例文が少ないのかはさらなる分析が必要である。

7. 「代わって」と「代わりに」の特徴

「代わって」と「代わりに」は入れ替えても意味が変わらない場合もあれば、入れ替えると違う意味になる場合もある。また、「代わって」と「代わりに」を入れ替えるとどちらかが意味が通らないという場合もある。接続できる品詞については、「代わりに」のほうが接続できる品詞が多い。格関係については両者に共通するものとそうでないものがある。

まず、「中級Ⅰ」で学習する例文について説明してから、筆者の考えた例文を中心に「代わって」と「代わりに」を対照的に比較する。

7-1. 本校で学習する「代わりに」

「代わりに」は本校では「中級Ⅰ」の第5課表現・語彙1で学習する。例文には以下が取り上げられている。

例文1. 父の代わりに、親戚のうちへあいさつに行った。

例文2. たばこを吸う代わりにあめをなめていたら、太ってしまった。

例文3. サンドイッチを買いに行っていたがなかったので、代わりにおにぎりを買って帰った。

例文4. 今学期は筆記テストはしません。その代わりにレポートを出してください。

例文1は主語「私が」が省略されており、「が格」で「代理」を表す用法である。例文2は「代用」を表し、「代わりに」の前に動詞が接続している。例文3は「代わりに」の前に「サンドイッチの」が省略されていて、「を格」で代用を表している。例文4は接続詞の例文で、意味は代用である。

本稿で「代理」とは「人の代理」を、「代用」とは「事物の代用」を表す意味で用いる。

7-2. 分析1：人の代理

「代理」の意味の例文について対比する。格関係は基本的な用法だと思われる「が格」とする。

- a. 父に代わって私があいさつをした。(代理)
- b. 父の代わりに私があいさつをした。(代理)

一回の出来事について、その行為者の「代理」を表す場合（が格）は、両者とも使うことができ、意味も同じである（a. b.）。コーパスによる分析では「代わって」の最も多い用法がa.のものであった。

- c. 父に代わって私が会社の経営を担うことになった。(代理・人が取って代わる)
- d. 父の代わりに私が会社の経営を担うことになった。(代理)

c. は「代理」ととらえることもできるが、文脈によっては「父が引退し、私が経営者になる」という世代交代を表す意味となり「取って代わる」と捉えることもできる。一方、d. のように「代わりに」を用いた場合は、あくまでも臨時的で期間を限定した「代理」ととることができる。たとえば「父が入院し回復するのに半年はかかることがわかったので、今年いっぱい父の代わりに私が会社の経営を担うことになった」とような文脈では「代わって」より「代わりに」のほうがふさわしいと思われる。

例文a. b. のような一回の出来事ではなく、経営を担うという代わったあとも継続する事柄の場合、担い手が将来続かない可能性もあり、「代わって」と「代わりに」に上記のようなニュアンスの違いが生じやすいのではないだろうか。つまり、その後も継続する行為の動作主が代わる場合は、世代交代のような「取って代わる」という文脈中で使うなら「代わって」、一時的な「代理」を表す文脈なら「代わりに」が適切だということになる。

7-3. 分析2：事物の代用

コーパスでの分析では「代わって」にはその例がなかったが、「代わりに」の基本的な用法だと思われる「を格」の文で比較する。

- × e. サンドイッチに代わっておにぎりを買った。
- f. サンドイッチの代わりにおにぎりを買った。(代用)

代用する対象が「を格」で表される文の場合、「代わって」は用いることができない (e) が、「代わりに」は用いることができ (f)、「サンドイッチが買ったかったがなかったのでおにぎり代用した」という意味になる。

7-4. 分析3：前に来る品詞

次に、「代わって」「代わりに」の前に来る品詞による違いを整理する。

- × g. レポートを出すに代わって調べたことをクラスで発表した。
- h. レポートを出す代わりに調べたことをクラスで発表した。(代用)

「代わって」の前に動詞は来ない (g) が、「代わりに」の場合、前に動詞を用いることができる (h)。

- × i. この仕事は給料が高いに代わって、時間が不規則だ。
- j. この仕事は給料が高い代わりに、時間が不規則だ。(両面性)
- j'. この仕事は高い給料がもらえる代わりに、時間が不規則だ。(両面性)
- × k. この部屋は新築できれいなに代わって家賃が相場より高い。
- l. この部屋は新築できれいな代わりに家賃が相場より高い。(両面性)

「代わって」の前にはい形容詞、な形容詞も来ない (i、k)。そして、「代わりに」は形容詞も来るが、その場合は、「いい面と悪い面の両面性があること」を述べる用法になる (j、l)。このような「両面性」を表す用法では「代わりに」の前に動詞が来る場合もある (j')。

7-5. 分析4：「取って代わる」か「代理・代用」か

次に、「代わって」の「取って代わる」の意味になる例文を「代わりに」と対比する。

コーパスの分析で例が多かった、「取って代わる」対象が「事物」と「人」について、「が格」の例文で比較する。

- c. 父に代わって私が会社の経営を担うことになった。(代理・人が取って代わる)
- d. 父の代わりに私が会社の経営を担うことになった。(代理)
- m. 最近コピー機に代わって複合機が使われるようになってきた。(物が取って代わる)
- × n. 最近コピー機の代わりに複合機が使われるようになってきた。

「代わって」には「取って代わる」ことを表す用法があることは c. を使って先に述べた。次に、「が格」で対象が事物の例文 m. でも考える。これは「コピー機の時代は終わり、複合機の時代になった」という意味を表す文となる。一方、「代わりに」を使った n. は不自然な文に感じる。「代わりに」の持つ「代用」つまり最適ではない物に置き換えるという意

味に、よりいと判断される物である複合機という語の意味がそぐわないからではないだろうか。「取って代わる」の例文を「代わりに」に置き換えると、異なる意味になったり、不自然になったりするようだ。

7-6. 分析5：「代わって」の「を格」の成立条件

- × e. サンドイッチに代わっておにぎりを買った。
- ? o. 田中さんに代わって木村さんを派遣することが決定した。(代理・人が取って代わる)
- ? o'. 田中さんに代わって木村さんを派遣した。(代理・人が取って代わる)
- p. 田中さんの代わりに木村さんを派遣することが決定した。(代理)

先に e. の「を格」の例文は不自然であることを述べた。しかし o. は「を格」であるが、不自然とは言い切れないような気がする。o'. のようなシンプルな文と比べると、o. のほうが自然さがあるように感じられる。文構造が影響するのかもしれない。意味については o. が自然だとして考えてみるが、文脈によって「代理」の意味にもなるし、「当初次に派遣する予定だった田中さんから木村さんに派遣する人が取って代わった」あるいは、「それまで勤めていた田中さんから次に派遣される木村さんへと人が取って代わった」という意味にもなると考えられる。

一方、「代わりに」の例文 p. は自然だが、「次に派遣する人として本来なら田中さんのはずだったが、何かの事情で田中さんの代理として木村さんを会社が派遣した」あるいは、「それまで勤めていた田中さんの代理として木村さんを会社が派遣した」という「代理」の意味となり、「取って代わる」の意味にはならない。

ここでコーパスにあった「取って代わる」の「を格」の例文を再度分析してみた。すると、そのほとんどが、目的語を2つ取る動詞であった。

コーパスにあった目的語を2つ取る動詞の例文

- ・ マンスフィールド大使に代わって、誰を後任として送るかは大きな問題であった。
- ・ 彼らに代わって「上海小組」と「教導団」のメンバーを乗せて一緒に広州に向かうことになった。
- ・ 妹の方は、地元の短大を出ると、寺を継ぐ気のない私に代わって、婿養子を取ったのです。
- ・ 永野閣下に代わって、下手に切れ者を軍令部総長の椅子に座らせると、永田参謀総長とぶつかる心配がある。
- ・ 場合によってはFN火器に代わって、1挺ないしそれ以上の12.7mm機関銃を装備している。
- ・ 画像表示しないブラウザを使ってimg要素を取り込んだときに、画像に代わって文字列を表示するためにalt属性によって代替テキストを指定します。
- ・ 以前登記簿を備えていた登記所も、コンピュータ長として衣替えし、登記簿謄本の交付に代わって「登記事項証明書」を交付するところが増加しています。
- ・ 生化学や生理学の教科書に代わってリルケの詩集と精神病理学の成書を持ち込んでいた。
- ・ 従来のトランジスタ・コンピュータに代わって、六四年にIBMが世界に先駆けてICを搭

載した360シリーズを発売した。

- ・その代りキリスト教では、神秘的合体に代わって神と人間との「結婚」を取り持つ教会を、仲人役として設定する。

コーパスにあった目的語を2つ取らない動詞の例文

- ・私たちの社会は、私たちにそれまでの暗黙の相互理解に代わって、意識化された相互理解を形成するよう要請しているのである。
- ・木炭に代わってコナラ、クヌギなどの薪を燃やして走る「薪自動車」が出現した。

コーパスの例文のうち目的語を2つ取る動詞ではなかった例文は対象が「事物」であった。一方、対象が「人」の例文の場合は、「(相手)に(人)を送る」「(乗り物)に(人)を乗せる」「(自分)に(婿養子)を取る」「(人)を(地位)に座らせる」というふうに、すべて目的語を2つ取る文であった。

- o. も対象が「人」で、「(先方)に(人)を派遣する」というように、目的語を2つ取る動詞である。このような場合は「を格」でも、不自然ではないのかもしれない。それに対し、e. のような目的語が1つの場合は不自然になるのかもしれない。

7-7. 「代わって」と「代わりに」の分析まとめ

「代わって」と「代わりに」の特徴を改めて整理してみる。

- ・「代わって」は「代理」と「取って代わる」という意味を持つ。
- ・「代わりに」は「代理」「代用」「両面性」の意味を持つ。
- ・「代わって」で表す対象は「代理」でも「取って代わる」でも「が格」の場合が多い。
- ・「×おにぎりに代わってサンドイッチを買った」のように、目的語が1つで「を格」の場合、「代わって」は使えないが、「代わりに」は使うことができる。
- ・「×この仕事は給料が高いに代わって時間が不規則だ」のように、「代わって」の前にい形容詞、な形容詞、動詞は接続しないが、「代わりに」には接続することができる。
- ・「この仕事は給料が高い代わりに時間が不規則だ」のように、「代わりに」の前に、い形容詞、な形容詞が接続した場合、「両面性」を表す表現となる。動詞が接続して「両面性」を表す場合もある。
- ・「父に代わって私が会社の経営を担うことになった」のように、その後も継続する行為の動作主が代わる場合は「代理」だけでなく、文脈によっては「取って代わる」の意味になる。それを「代わりに」と入れ替えると「代理」の意味にしかない。
- ・「父に代わって私が会社の経営を担うことになった」「最近コピー機に代わって複合機が使われるようになってきた」のように世代交代を表す文を「代わりに」と入れ替えると「代理」を表す文となったり不自然になったりする。
- ・「代わって」の対象が「人」で「～に～を送る」「～に～を乗せる」のような目的語を2つ取る表現の場合は、「を格」であっても自然に感じられる例文もあるようだ。

7-8. 「代わる」の意味

このような「代わって」の特徴を踏まえて、「代わる」の意味についても述べる。

「現代日本語書き言葉均衡コーパス」のデモ版（「少納言」）を用いてジャンルに「書籍」を年代に「2000年代」を選択し「に代わる」をキーワードとして検索したところ、244件ヒットした。それらのうち「人が取って代わる」用法は32件、「事物が取って代わる」は140件、「代理」は4件、「代用」は19件であった（表2）。表に続けて例を挙げる。

（表2）「代わる」の使用例の分類

意味	代わる			
	取って代わる		代理	代用
対象	人	事物	人	事物
用例数(244)	32	140	4	19

- ・クナの実演はもう永久に聴けないが、それに代わる人としてマタチッチが現われ、幸いにもN響の名誉指揮者の地位にある。（人が取って代わる）
- ・判決に不服であれば、判決書または判決書に代わる調書を受け取ってから2週間以内に、この裁判所に対して異議の申し立てをすることができる。（事物が取って代わる）
- ・教員は家庭の父母あるいはそれに代わる人たちと話をしなくてはならない。（代理）
- ・輸液ボトルを点滴スタンドまたはそれに代わる物にかける。（代用）

「代わる」の用例数でいちばん多かったのは「事物が取って代わる」例で、「人が取って代わる」例が続いた。これらが「代わる」の中心的な用法ではないかと思われる。

「代理」と「代用」の例は少なかった。また「代用」の19件のうち、「裁判所の掲示場（裁判所が相当と認めた場合には、市役所や町役場またはこれに代わる施設の掲示場）に掲示し〜」や「産後56日の期間のうち、勤めを休んだために給料の支給がない場合は、給料に代わるものとして出産手当金が支給されます」のような規定や制度に関して述べる例が15件あり、このような場面では「代用」が好まれるのではないかと考えられる。

8. 今後の指導に向けた提案

「代わる」の誤用をきっかけに、ここまで分析してきたが、「代わって」と「代わりに」の区別も含めて指導しようとする、その留意点は多岐に広がり複雑であることがわかった。「代わりに」「代わる」の意味導入・練習の時間にこれらの内容を網羅的に指導することは学習者の負担が非常に大きい。意味導入・練習の時間には、これらの中の何をどのように指導すべきか検討する必要がある。

「中級Ⅱ」での例文を改めて見てみよう。「中級Ⅱ」では、この文型の意味を「人の代理、事物の代用」として、以下の例文を挙げている。

例文1. 部長が急病のため、部長に代わって課長が出張することになった。

例文2. 病気の父に代わって私が父の友人の出版記念パーティーに出席した。

例文3. 首相に代わり外務大臣が演説した。

例文4. (旅行会社で)

社員：担当の吉岡が不在のため、吉岡に代わりまして私をご説明いたします。

例文5. あの研究所では原子力に代わる新しいエネルギーの研究を進めている。

「代わって」の文体のバリエーションとして「代わり」「代わりまして」が提示されているが、例文1から4の意味はすべて「人の代理」である。そして「代わりに」との入れ替えが可能であり、格は「が格」である。4つとも「取って代わる」の例文ではない。それに対して「事物の代用」を表しているのは例文5だけであり、これは「代わる」の例文でもある。ただ、この例文は本稿で言う「取って代わる」に該当すると思われる。

学習者の理解力や学習にかけられる時間などに応じて、何を指導すべきかは柔軟に変更する必要があるが、以下を1つの案として今後の参考にしてはどうだろうか。

「代わりに」との違いを明確にする意味でも、「代わって」の例文として「取って代わる」の意味の例文も取り上げて指導すべきだろう。「人」も「事物」も用例が多いので両方を取り上げたほうがよい。

次に格については、文脈から「が格」か「を格」かが使い分けられることが理想だが、指導項目が多いという事情を踏まえ、「が格」だけにとどめたほうがいだろう。「を格」については用例がそれほど多くないうえに、どのような条件の時に成立するのか、複雑である。本稿での分析の妥当性も検討が不十分である。

「代わる」については、「事物が取って代わる」例文を提示して、それに続く名詞(句)に特徴があることも指導する必要がある。「人が取って代わる」例は用例がそれほど多くないことから無理に提示しなくてよいだろう。

「代わりに」についてもこの授業内で紹介し、「代わって」との違いを説明したほうがよい。「代理」(が格・名詞)は入れ替えが可能なものとして提示し、「代わりに」だけの用法として「代用」(を格・名詞)を提示することで、「代わって」との相違点を明確にできるのではないか。「両面性」については、「中級I」でも学習していないことから、この授業では指導する必要はないだろう。

「代わって」「代わる」の意味導入・練習の時間に指導すべきだと考えたものについて、表3にまとめ、その下に、各用法の例文を提示する。

(表3) 「代わって」と「代わりに」の指導すべき項目

	代わって			代わる	代わりに	
意味	代理	取って代わる		取って代わる	代理	代用
人/事物	人	人	事物	事物	人	事物
格	が格	が格	が格		が格	を格
前に来る品詞	名詞	名詞		名詞	名詞	名詞

代理／人／が格／名詞

- ・部長が急病のため、部長に代わって課長が出張することになりました。

取って代わる／人／が格／名詞

- ・父に代わって私が社長に就任した。

取って代わる／事物／が格／名詞

- ・新幹線に代わってリニアモーターカーが日本中を走る日も遠くない。

取って代わる／事物／名詞

- ・あの研究所では原子力に代わる新しいエネルギーの研究を進めている。

代理／人／が格／名詞

- ・部長が急病のため、部長の代わりに課長が出張することになりました。

代用／事物／を格／名詞

- ・お弁当が売り切れだったので、お弁当の代わりにパンとおにぎりを買った。

9. 今後の課題

本稿を書くにあたって、先行研究を探したが、「代わって」の用法に関する研究も「代わって」と「代わりに」の違いに関する研究も見つけることができなかった。今後も調査を続け、他の研究から示唆を得ることは重要だろう。特に、本稿での「代わって」「代わりに」の意味分類が適切かどうかはさらに検討が必要だ。「代用」なのか「取って代わる」なのかは文脈によって決まるので、実際に「現代日本語書き言葉均衡コーパス」の用例を分析する際、どちらか微妙なものもいくつかあった。さらに、「代わって」の「を格」の成立条件については可能性を述べたが、これについても分析がまだまだ不十分だ。目的語を2つ取る動詞かどうかという観点だけでなく、文構造や文脈などにも広げた分析が必要だろう。そして、「代わって」ばかりではなく、「代わる」についても分析を続け、「代わって」と「代わる」がどのような文脈、場面、意図で使われるのか、それぞれの特徴を整理し、指導に反映させていく必要がある。

そういう意味では、8.で提案した「代わって」「代わる」の意味導入・練習を行う授業での指導項目も試案の域を出ない。この案を使って実際に指導し、学習者がどのような反応を示すか調査することでさらなる課題が見えてくるだろう。また、このような提案をどう考えるか、本校の教師とも意見交換の場を持ち、指導上のポイントをより明確にしていきたいと思う。

最後に、本稿執筆にあたり、多くの助言をいただいた浅野目志乃氏にこの場を借りてお礼を申し上げたい。

注

- (1) 2015年4月期4.5組は4月に『文化初級日本語テキスト改訂版』の第25課から学習を開始し、2016年3月に『文化中級日本語Ⅱ』をすべて学習して卒業したクラスであった。卒業時点で各クラス20名ずつ学習者が在籍しており、その出身は2クラスを合わせて、アメリカ1、アルゼンチン1、アルメニア1、カンボジア1、タイ10、韓国1、台湾17、中国7、日本1であった。
- (2) 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(コーパス開発センター)のデモ版(「少納言」)は、インターネット上に公開されているコーパス(<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>)である。

参考文献

- (1) アスク出版編集部(2008)『生きた例文で学ぶ日本語表現文型辞典』アスク出版
- (2) 市川保子(2007)『中級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク
- (3) グループジャマシイ(1998)『日本語文型辞典』くろしお出版
- (4) 友松悦子 宮本淳 和栗雅子(2010)『どんなときどう使う日本語表現文型辞典』アルク

資料

「代わって」「代わりに」の対比に用いた例文一覧

- a. 父に代わって私があいさつをした。(代理)
- b. 父の代わりに私があいさつをした。(代理)
- c. 父に代わって私が会社の経営を担うことになった。(代理・人が取って代わる)
- d. 父の代わりに私が会社の経営を担うことになった。(代理)
- × e. サンドイッチに代わっておにぎりを買った。
- f. サンドイッチの代わりにおにぎりを買った。(代用)
- × g. レポートを出すに代わって調べたことをクラスで発表した。
- h. レポートを出す代わりに調べたことをクラスで発表した。(代用)
- × i. この仕事は給料が高いに代わって、時間が不規則だ。
- j. この仕事は給料が高い代わりに、時間が不規則だ。(両面性)
- j'. この仕事は高い給料がもらえる代わりに、時間が不規則だ。(両面性)
- × k. この部屋は新築できれいなに代わって家賃が相場より高い。
- l. この部屋は新築できれいな代わりに家賃が相場より高い。(両面性)
- m. 最近コピー機に代わって複合機が使われるようになってきた。(物が取って代わる)
- × n. 最近コピー機の代わりに複合機が使われるようになってきた。
- ? o. 田中さんに代わって木村さんを派遣することが決定した。(代理・人が取って代わる)
- ? o'. 田中さんに代わって木村さんを派遣した。(代理・人が取って代わる)
- p. 田中さんの代わりに木村さんを派遣した。(代理)